



大 正

80年前

44年	2年	11年
<p>ランプ (90年前ぐらい)</p>  <p>・町内に自転車が姿を見せた。</p>	<p>・只見川の大洪水で被害が出た。</p>	<p>電気(80年前ぐらい)</p>  <p>・町内に電とうがともった。</p>
<p>14年人口 7,149人</p>		



舟渡しのようす

明治のはじめごろまでは、只見川をはさんだ村々は舟で行き来をしていました。しかし舟渡しは不便だったし危険でもあったので、人々は自分たちで資材を村の山から切り出し、橋をかける工事を始めました。



二本木橋の渡り初め 大正2年

大正2年にできた大塩と横田を結ぶ二本木橋の渡り初めは、おおぜいの人が集まってお祝いをしました。

金山町では、昔から明かりに使うろうそくがつくられていましたが、高価なため自分たちで使うことはなく、明治の中ごろまでいろいろのたき火が明かりでした。明治のおわりごろになってランプになり、大正11年に電とうがついたのです。人々はその明るさにおどろきました。